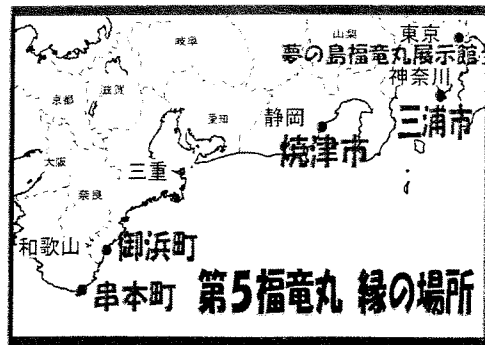


第五福竜丸の歴史年表



1946年(昭和21年)9月

太地町出身の漁業家で神奈川県賀茂郡三崎町(現三浦市三崎町)の寺本正一氏が郷里の親戚を通じて和歌山県古座の古座川中洲にあった古座造船所に第七事代丸を発注する。寺本正一氏は昭和26年に事代漁業株式会社を設立し、神奈川県かつお・まぐろ漁協同組合の理事長や三浦市議会議員を勤めた企業人である。

当時鋼船はすべてGHQの許可が必要で、木造船は100トン未満に限りGHQの許可なく建造ができた。船はカツオ釣り船とし、翌年春のカツオ漁までの完成を希望した。そのため船大工達は突貫工事で「星から星まで働いた」という。



1947年(昭和22年)3月20日

第七事代丸進水式。

全長28.56m、幅5.9m、高さ15m、140t余(公称99t)

100tを超える船はGHQの許可が必要だったため、実際には40tほどオーバーしているにもかかわらず、審査官を買収して99tで登録したという。以後4年間船頭中村藤四郎の下、カツオ一本釣りで日本一の座を占める。南はフィリピン・台湾・沖縄から北はカムチャッカ半島に至るまでの広い範囲で操業し、乗組員は40~50人であった。

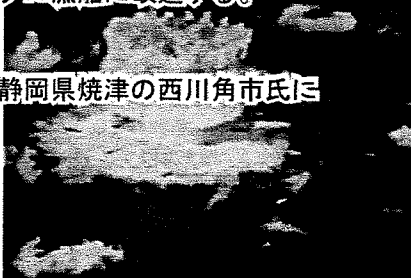


1951年(昭和26年)

終戦直後、日本の漁業はGHQ(連合軍最高司令官総司令部)の定めたいわゆるマツカーサーラインにより操業海域の規制を受けた。同ラインは1952(昭和27)年に廃止され、遠洋漁業が自由となった。昭和26年に事代漁業株式会社を設立した寺本正一氏はこれをみこして第七事代丸を静岡県清水市の金指造船所でマグロ漁船に改造する。

1953年(昭和28年)5月

事代漁業は400トン級の第十事代丸を建造。第七事代丸は静岡県焼津の西川角市氏に売却され、船名も「第五福竜丸」と改名される。



1954年(昭和29年)

1月22日

福竜丸となって4度目の漁のため焼津港を出港。

3月1日

早朝、ビキニ環礁北東海上に於いてアメリカの水爆実験で被災。

3月14日

母港焼津に帰港。

3月28日

乗組員23名、国立東京第一病院及び東大付属病院に入院。

6月7日

船体・漁具等を文部省が学術研究資料として買い上げる。

8月23日

東京港に曳航され、越中島の隅田川に到着。

9月23日

無線長久保山愛吉さんが「死の灰」の犠牲の死。



1955年(昭和30年)8月6日

ビキニの事件が契機となって原水爆禁止運動が盛り上がり、広島で第一回原水爆禁止世界大会が開かれる。



1956年(昭和31年)7月

三重県伊勢市の強力造船所で800万円の費用をかけて改造、「はやぶさ丸」と改名。東京水産大学の練習船となる。はやぶさ丸は千葉県館山港を母港とし、漁業学科の延縄漁業や棒受け漁業及び航海運用法の実習、海洋観測、漁業調査を習得させるための実習船として駿河湾や八丈島などへ航海した。船は廃船処分となるまでの11年間にわたって使用された。

1967年(昭和42年)3月

廃船処分となり「屑化」を条件に解体業者高山興産に払い下げられる。

11月

船体の所有権は山田商店に移る。エンジンは解体業者から三重県尾鷲市の奥地寿太郎氏に売却され、貨物船「第三千代川丸」で使用される。



1968年(昭和43年)

3月10日

『朝日新聞』の「声」欄に、26歳の青年の「沈めてよいのか第五福竜丸」の保存を求める投書で、夢の島に放置された「第五福竜丸」の後身「はやぶさ丸」の保存の声がおこる。

3月13日

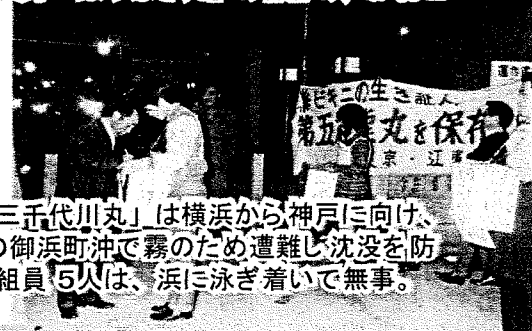
船体保存のための募金運動が始められる

3月19日

有志が船体を山田商店から買い取る。

7月21日

「第五福竜丸」のエンジンが据えられていた「第三千代川丸」は横浜から神戸に向け、潤滑油のドラム缶717本を積んで航行中、熊野灘の御浜町沖で霧のため遭難し沈没を防ぐため七里御浜に乗り上げたが、結局沈没した。乗組員5人は、浜に泳ぎ着いて無事。



1970年(昭和45年)2月

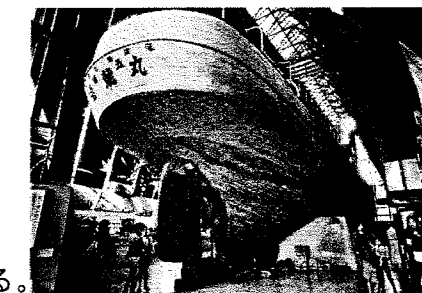
船名を「第五福竜丸」にもどす(刻名式)。

1974年(昭和49年)10月

船体が東京都に寄付される。

1976年(昭和51年)6月

都立・第五福竜丸展示館落成、開館。保存公開されている。



1996年(平成8年)12月2日

三重県御浜町沖の海底に沈んでいたエンジンが引揚げられる。

1997年(平成9年)5月

展示のための補修も終えたエンジンは引揚げ地の御浜町から和歌山に向かう途中で古座町に立ち寄り、役場前で展示された。

1999年(平成11年)5月

古座川河口の公園に第七事代丸建造の地記念碑が建立される。



2000年(平成12年)1月22日

エンジンが都立・第五福竜丸展示館に届けられる。老朽化した船体に戻すことは無理なので敷地内に設置、保存展示されるようになった。